

令和5年度の森林環境譲与税の使途（地域林政アドバイザー等設置支援事業）

➤ 市町・地域による地域林政アドバイザー等の雇用等を支援することで、各市町・地域の主体性を尊重した実行体制の確立を促進し、森林整備の加速、森林の有する多面的機能の維持・増進を図ります。

□ 事業内容

地域林政アドバイザー等設置支援事業

各市町・地域において、森林・林業に関する専門知識・経験を有する者を雇用・委託する際の経費を支援する。

【事業費】 7,370千円（全額譲与税）

【実績】 県内3市町に対する補助

□ 取組の背景

- ・ 県内の市町では、従来の業務に加えて、令和元年度から新たに森林経営管理制度や森林環境譲与税を活用した森林整備等の活動を行っていく必要が生じた。
- ・ 市町職員には林業の専門知識を有する者が少なく、かつ他分野を兼務していることも少なくないことから、林業経営に関する専門知識と経験をもって市町の活動を支援する必要があった。

⇒R元年～地域林政アドバイザー設置事業 （県でアドバイザーを設置）

- ・ その結果、18市町で意向調査を、9市町で森林整備を実施するなど運営体制の一定の素地はできつつある。
- ・ 一方、外部から支援できる範囲にも限界があり、地域課題やその対応策が洗い出されてくる等各地の実行体制に入り込んだ人的支援が必要となってきた。

□ 工夫・留意した点

- ・ 県からの派遣ではなく、地域に密着した人材を市町が自由に雇用できるようにした。

□ 取組の効果

- ・ 各市町・地域の主体性を尊重した実行体制の確立につながった。
- ・ 活用市町の成果として、森林境界明確化、意向調査の実施、森林整備の実施等、個別市町の実情に合った取り組みを進めることができた。
- ・ 地域課題を熟知した人材を雇用したことで、効率的な事業の推進ができた。



（人材確保策を検討）



（森林所有者への事業説明）

令和5年度の森林環境譲与税の使途（林業経営体育成事業）

- ▶ 森林経営管理制度の実施により、従来の森林整備に加えて、これまで手入れが行われなかった森林の整備等が促進されることが期待される中で、森林整備の担い手である林業経営体等の人材育成が求められます。
- ▶ そこで、林業経営体の現場技能者等を対象とした研修を開催し、現場技能者の知識、技術、モチベーションの向上を図ります。

□ 事業内容

林業経営体育成事業

林業経営体の現場技能者等を対象に各種研修を実施

【事業費】

4,172千円（全額譲与税）

□ 取組の背景

- 森林経営管理制度の実施により、今後、増加する県内の森林整備を担う林業事業体の育成が必要である。
- 近年、集中豪雨など異常気象を背景とした山地災害が多発しており、災害に強い森林作業道等の開設ができるオペレーターの育成が必要である。



（伐木等高度技術研修）



（ICT活用路網整備研修）

□ 工夫・留意した点

- 伐木等高度技術研修では、手持ち機械の分解・整備及び目立て、支障木処理等、現場ですぐに実践できる内容とした。
- ICT活用路網整備（中級）研修においては、森林GIS等のICTを活用した災害に強い路網の作設方法が学べる内容とした。
- ICT活用路網整備（高度技能者）研修においては、ICT機器等を活用したヘアピンカーブの設計から作設までを体験できる内容とした。
- 高性能林業機械研修においては、効率的かつ安全な操作と機械のメンテナンス方法が学べる内容とした。

□ 取組の効果

- 伐木等高度技術研修
2回開催し、現場技能者5名受講
- ICT活用路網整備（中級、高度技能者）研修
2回開催し、現場技能者10名受講
- 高性能林業機械安全操作研修
1回開催し、現場技能者3名受講

▶ 令和5年度の成果として、

林業経営体の現場技術員18名を対象に、伐木等高度技術、ICT活用路網整備、高性能林業機械等の安全で効率的な操作方法に関する研修を実施したことにより、知識、技術、モチベーションの向上が図られた。

令和5年度の森林環境譲与税の使途（林業機械導入への支援）

- 県産木材の価格が上昇し、本県林業にとって追い風となりうるこの機を捉え、林業事業者の生産基盤の整備などを行い、林業の再生につなげていく必要があるため、機械化を支援し、木材の伐採・搬出作業の効率化を推進します。

□ 事業内容

林業機械導入に要する経費を支援

林業事業者に対し、木材の伐採、搬出の効率化の推進に必要な林業機械の導入に要する経費の支援を実施。

【事業費】

4,200千円（全額譲与税）

□ 取組の背景

- 海外の経済活動の活発化等により、国内の外材が不足するとともに価格が高騰していたことから、外材の代わりに国産材の需要が高まり、県産木材の価格も高騰していた。
- そこで、県産木材の需要の高まりに対応するため、林業事業者の伐採・搬出作業の効率化に必要な林業機械の導入経費に対し支援を行い、伐採・搬出の効率化の推進及び県産木材の供給促進を図った。

□ 工夫・留意した点

- 架線を用いて木材を搬出する際に使用するラジキヤリーは、国庫補助の対象ではあるが、県内には補助要件を満たさない小規模な事業者も多く、国庫補助や県の嵩上げ補助の対象外であった。
- しかし、本県の奥地や傾斜がきつい山林については、車両系での搬出作業は難しく、架線系での施業が重要となる。そこで国庫補助や県の嵩上げ補助の対象とならなかったラジキヤリーを導入する事業者に対し県独自の補助事業で支援を行った。

□ 取組の効果

- 1事業者
 - ラジキヤリー 1台



（導入した林業機械）

令和5年度の森林環境譲与税の用途（さが林業アカデミーの開講）

- 森林は、木材の生産をはじめ、水源の涵養(かんよう)や土砂の流出防止、二酸化炭素の吸収など、私たちに様々な恩恵を与えており、将来にわたって守り育てていくことが重要です。
- そこで、佐賀県では令和4年度から「さが林業アカデミー」を開講し、セミナーや体験会、講習会を通じて、林業に情熱を持ち、知識や技術力を備えた人材の育成を図っています。

□ 事業内容

さかの林業再生プロジェクト推進事業（さが林業アカデミー）

- ・ 林業就業セミナー(東京・佐賀)、林業体験会、林業講習会の開催
- ・ さが林業アカデミーパンフレットの制作など

【事業費】

8,733千円（全額譲与税）

□ 取組の背景

- ・ 森林を適切に整備するために、林業就業者や林業事業者など、林業の担い手の存在が欠かせない。
- ・ しかし、県内における林業の担い手は年々減少しており、直近10年間で6割にまで減少した。
- ・ 今後、県内の森林を持続的に守り育てていくために、林業の担い手の確保・育成が急務といえる。



（林業就業セミナー）



（林業体験会）

□ 工夫・留意した点

- ・ ふるさと回帰支援センターや県移住支援室などと連携し、首都圏・近県からの参加者の取り込みに努めた。
- ・ 佐賀県森林整備担い手育成基金と連携して、林業講習会開催期間中に林業就業マッチング相談会を開催したり、随時就業相談を行うなど、県内林業での就業に結び付くよう支援した。

□ 取組の効果

- ・ 就業セミナー 2回開催・28名参加
- ・ 体験会 17名参加
- ・ 講習会 5名受講
- ・ Step. 1～3の参加者から5名が佐賀の林業に就業した。
（4名：林業事業者、1名：自伐型林業）
- ・ 「さが林業アカデミー」のパンフレットを制作し、紙媒体で就業検討者の手元に情報を届けることができるようにした。



（林業講習会）

令和5年度の森林環境譲与税の使途（普及啓発イベントの開催）

- ▶ 国産木材の需要の高まりから木材生産量の増加が期待される中、本県では、年々、林業従事者が減少しているため、林業の担い手の確保が課題となっています。
- ▶ そこで、林業技術の競技会であるSAGA伐木チャンピオンシップを開催することで、県内林業従事者の技術力向上の機会となるだけでなく、一般県民に対して林業の魅力を発信し、職業としての林業に対する理解を深めてもらうことができます。
- ▶ 令和5年度は、日本伐木チャンピオンシップ公式ルールに準じて3種目を実施し、30名の林業従事者が選手として参加し、技術を競い合い、安全意識の向上に繋がりました。
- ▶ 一般の方には、普段はあまり見られないチェーンソーを使った作業を見ていただくことで、技術力の高さや安全装備などの周知ができ、約1,300名の来場者に林業の魅力を発信できました。

□ 事業内容

SAGA伐木チャンピオンシップ2023開催業務

【事業費】

9,636千円（全額譲与税）

取組の背景

- 一般県民においては林業のイメージは薄く、認知度も低いため、林業のイメージをプラスに転換し、認知度を上げる必要がある。
- 林業は極めて高い労働災害発生率であるため、伐木技術・安全意識の向上を図る必要がある。



（競技状況）



（大会写真）

□ 工夫・留意した点

- 県民の方も広く参加できるイベントとしたことで、林業の魅力・迫力を広く発信できるようにした。
- 九州伐木チャンピオンシップとの同時開催とすることで、全国大会出場選手の高い技術力を学べる場となるようにした。
- YouTubeやSNS等で開催案内、結果について発信を行った。

□ 取組の効果

【実績】

- ▶ 来場者 約1,300名
- ▶ 出場チーム数 15チーム（30名）

- 県民の方に向けて、林業の“面白さ”、“カッコよさ”をPRすることで、職業としての「林業」の認知が向上した。
- 県民の方の森林づくりの参画意識醸成につながった。
- 出場選手の技術力・安全意識の向上につながった。
- 他事業体の出場選手との交流を通じて、林業技術者としての向上心・プライド醸成につながった。